

Noto / Okunoto



能登・奥能登応援マガジン



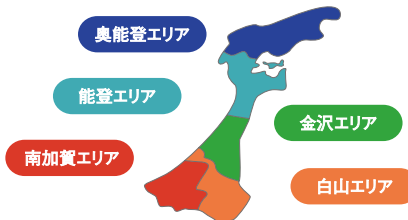
がんばろう能登 食べて能登・奥能登を応援!

ふるさは宝の山!
南加賀から奥能登までを知り尽くした
じのもん編集部厳選!
石川・能登のおいしいモノが自宅に届く



POINT 1

便利なエリア検索機能



色分けされたエリアをタップするだけで「じのもん」の категорияが表示されます。

POINT 2

便利なカテゴリー検索機能



「農作物」であれば、さらに詳しく「米・餅」や「野菜」などが表示されます。



車窓から見た今の「のと」



年間2万人を乗せるのと鉄道の観光列車「のと里山里海号」。この列車もまた多くの観光客を乗せ、停車中に大きな揺れと大津波警報に見舞われました。その列車内で被災し、乗客を避難先まで誘導したアテンダントはこう話します。「お客様に笑顔で帰ってもらうことが、いつ何時も私たちの使命です」。避難先で寒い夜を過ごした後、乗客からは感謝の言葉をもたらったといいます。現在のと鉄道は、のと里山里海号を除く全線が再開。彼らは今能登を走りながら、何を見て何を想うのでしょうか。



石川県・能登半島の七尾湾に沿って走るローカル鉄道。七尾市街から穴水町まで33.1kmをつなぎ、地域住民の交通網としてだけでなく、能登の穏やかな景色を堪能しながら移動できる観光客の足の便としても活躍している。

ぜひ、もう能登へ。
その目で見て、伝えて

2024年4月6日、能登半島地震から約3カ月、331キロに及ぶのと鉄道は全線で運行を再開しました。当時、復興のシンボルと報じられ、希望を感じた人がいたことは事実。しかし、のと鉄道で働くスタッフはその3カ月を冷静に振り返ります。

乗務員を務める山際さんは、特に学生たちを心配していました。「時間に制限のある臨時バスは通学にどうしても不便。そのため若者が金沢へ出ていくという話も耳にしていたので、新学期に間に合ったことはホッとしました」。実際に復旧作業にあたった作業員の赤塚さんは、「当時全国から作業員が集まってくださり、とても感謝しています。でも私たちが行ったのは特別なことではない。安全に鉄道を動かすた

めに、目の前のことを一つずつ処理したというだけのこと」と謙遜します。自宅が被災した人も多し中、震災直後に各自の使命感で集まったというスタッフたち。「交通を守ることは地域生活を守ること」。地域に密接だからこそ、安全な鉄道の存在を守るという覚悟が一人一人を動かしたのかもかもしれません。

能登は豊かな自然を活かし、農林水産業と観光業が活発な地域。しかし、一つである観光業は現在難しい状況にあるといえます。沿線では営業再開した店も増えていますが、観光客が少ないというのが現実。もう能登へ行っていないのだろうかと思っている方が多いのかもしれない。構内を案内しながら総務部長の宮上さんは、「報道が減った今だからこそ、能登に足を運んでほしい。その目で見て感じて、いろんな人に能登のことを伝えてほしいんです」と切実な想いを言葉にしています。



上/のと鉄道では乗務員、信号係、手旗係などを兼務する場合も。少人数制であるため、出発時に事務所内のスタッフへ合図をするなど業務内でのコミュニケーションも大切にしているそう。下/気温が上がると線路が熱を持ち調整が必要に。乗車だけでは気づかない安全点検が日々行われている。

自然と共存する能登を
未来へつなげるために



上/震災後、全線再開した日のワンシーン。スタッフ一同、始発列車を穴水駅で見送った。右下/学生から高齢者の方々まで様々な年代の人が乗り合わせる。再開時にはお客様から声をかけてもらったというスタッフも多い。左下/ラッピング列車の運行や様々なイベントを企画。イベント時はお客様とのふれあひも多く、足を運んでもらった喜びもひとしお。

2024年の全線運行再開以降、通常運行はもうろん、イベント運行の企画も精力的におこなってきたのと鉄道。家庭の事情などから、お出かけや遊びの頻度が減ってしまった被災地の子どもを案じて、夏にはPOKEMON with YOUトレイン(ポケモン列車)の運行を開始しました。秋からは、団体向けに震災の語り部列車の運行を開始。その列車で語り部を務めるのは、現在休止している観光列車、のと里山里海号でアテンダントを務めていた宮下さん、坂本さん、牛上さんです。

「地震は確かにあった出来事で、辛いこと

や悲しいことをたくさん経験しました。ただ、この能登にはそんなときでも美しい自然が以前と変わらない形で残っていたんです。季節の花が咲いて穏やかな海がキラキラと光る。そんな風景に私たちが救われました。語り部列車では、そういったことをお話ししながらお客様には能登の自然で癒されてほしいと思っています」。

自然災害に苛まれた能登ですが、この地で営みを育む人々は、その自然が包み込む温かさも知っています。都市部から離れ、不便さはある。しかし、雄大な里山里海がいつの時代も人を魅了し、暮らしを守ってくれているのです。その自然の美しさを、歴史を、文化を、次世代へつないでいくために、のと鉄道は前に進みます。能登へ人を運び、能登の今を知ってもらうことは、希望になると信じているからです。



やぐらの上でボラの群れを見張る原始的漁法で使われたボラ待ちやぐら（穴水駅付近）



のと鉄道沿線から山に向かって広がるゆるやかな棚田の景色（西岸駅付近）

それでも、変わらず「のと」は美しい。

震災直後、メディアやSNSには痛々しい能登の姿が溢れていました。しかし、あらゆる場所が崩壊した状況でも、能登の人たちは口をそろえて言います。それでも、能登の美しさは変わっていないと。ここはあの大地震が起きた、2024年の能登です。



桜と七尾湾のコントラストが美しく、能登さくら駅の愛称で親しまれる（能登鹿島駅）



田んぼの中に小さな森が浮かんでいるように見える鹿島神社（能登鹿島駅付近）

風の人から 「のと」誇る土の人へ

移住者として地域に新たな視点をもたらした2人のシェフ。
困難な状況を経ても、能登に根を張る決意は揺るぎません。



海の家をリノベーションしたレストラン棟



時間を追うにつれて、表情が変わっていく七尾湾。その姿を眺めているだけでも贅沢で、まるで能登の自然に溶け込んだような感覚に。

能登を訪れるための理由になる場所

穏やかな海を眺めながら能登の恵みを味わい、その余韻と共に夜を過ごせるオーベルジュ「ヴィラ・デ・パース」。東京から移住した平田明珠さんが七尾市街でレストランを開業後、現在の中島地区へと移転しました。滞在の主役はやはりディナー。凛々しい一枚板のテーブルを彩るのは、地元で採れる野菜に、付近の山に自生する野草や山菜、能登の漁港で揚がる海の幸。美しい能登の自然を、食を通して表現し、人々を魅了します。平田さんは「食事を提供するというよりも、この場所に滞在する時間の全てをプロデュースすることに、僕が能登で料理をする意味があると思っています」とクリエティブな想いを口にします。

震災直後、避難所の炊事の取りまとめ役を務めながら自店の復旧作業にあたった平田さん。他の地域と行き来すると、世界がまるで違うギャップに苦しんだり、時に被災者として救いの手を差し伸べられている感覚がつかない時もあったとか。しかし、今は真つすぐに前を向いていきます。「六千年も前から人が定住している能登。その長い歴史の中でも、災害はきつとあったはずで、でも今も人は住み続けています。今回はたまたまそのターンドっただけで、それでも歴史は続いていく。僕たちがその一端を担っていると感じています」。

震災翌日、七尾湾の奥に今までの二番と言えるほど美しい立山が望めたそう。「その景色を見て、何があってもここで料理をして生きていくと決めたいです」と話す平田さんの目には、脳裏に焼き付くその風景が今も見えているかのようでした。



villa della pace
オーナーシェフ
ひらた めいじゅ
平田 明珠さん



「畑」と題したコース内の一皿。全国のシェフに愛される能登の農園や近くの山で採れた約50種もの野菜を様々な調理法で。旬のみならず、発酵などを施し保存させたあらゆる季節のものが頂ける。

笠師保駅から徒歩約15分

villa della pace

石川県七尾市中島町塩津乙は部 26-1
tel. 0767-88-9017
[Instagram] @villa_della_pace



明るい光が差し込む窓辺には、いつかの賑わいの痕跡ともとれるワインの空瓶が並ぶ。カウンターも用意され、一人客がスタッフと和やかに会話する様子もこの店の日常。

七尾駅から徒歩約20分

ひのともり

石川県七尾市小島町大開地 1-5
tel. 0767-58-6214
[Instagram] @hinotomori770



ひのともり
オーナーシェフ
ひの たかあき
日野 貴明さん

人が集い、明かりが灯る町を引き上げる若い力

里山から街を通り、海へ注ぐ御祓川の河口付近、観光地から少し奥まったエリアにある「ひのともり」には、地元の若者が集います。能登食材がたっぷり使われたランチや、フレンチの技を活かしたスイーツが楽しめるカフェタイム。のんびり時間を過ごしたくなるような和やかなお店です。オーナーは金沢生まれ東京育ちの日野貴明さん。20歳の頃に珠洲を訪れてから能登の景色や人の温かさに触れ、転がるように移住・起業を決めたといいます。2021年にフレンチレストランを開業し、よりカジュアルな業態へ転身を考えていた——震災が起こったのはそんなときでした。直後の店内は痛ましい光景でしたが「落ち込んだのは一瞬」と日野さん。持前

のアグレッシブさで珠洲へ炊き出しに通いながら、復旧作業や準備を進め、春には食堂スタイルにリニューアルしてお客様を迎え入れました。

日々の賑わいはもちろん、店内には委託販売商品が並び、定休日には間借り店舗が入る。「ひのともり」には、いつもたくさん人のエネルギーが満ちています。「皆でつくる」がコンセプト。いつもこの場所に明かりが点き、集まる場があることは町の活力にもつながります。皆の能登の好きな場所々になれるように続けていきたいんです。ワークショップやマルシェ、子ども食堂など展望は尽きませんが、その一歩が今後予定している金沢への出店です。知名度を広げ、能登に足を運んでもらうための大きな決断。「全てはこの場所と能登を守るため」と話す表情の裏に、日野さんの若さだけではない熱量が見え隠れしています。



委託で焼き菓子も販売



上/約10種類の小鉢がついた「季節の贅沢定食」(2000円)。どの料理も丁寧に仕込まれ、少ないポーションでも満足度が高い。家庭料理でありながらフレンチのエッセンスが効いたものも。下/角地に建てられた一軒家の店をつい中を覗きたくなる。白く塗られた壁に映えた赤いロゴマークが目印。





Bakery H&M

呉服店の一角にある穴水町唯一のパン屋さん。一番人気の商品は、じゃがいもや牛肉などの具材がたっぷり詰まったカレーパンです。常連客の要望に応じて様々なパンを提供しています。

穴水駅から
徒歩約5分

TEL. 0768-52-0005
石川県鳳珠郡穴水町川島イ13-1
ウイングなかり
[Instagram] @bakeryhm_



アートと泊まる一棟貸しの宿 tonot

一日一組限定の宿。陶芸作家のオーナーが作るセラミックアートが各所に展示されています。『ひのともり』の日野シェフを招いてフレンチディナーを楽しめる月1回の出張シェフプランも用意されています。

西岸駅から
徒歩約15分

TEL. 0572-44-7050
石川県七尾市中島町小牧4106
[web] <https://tonot.snack.chillnn.com/>

泊+カフェ遊帆

西岸駅から徒歩3分、七尾湾の小さな入り江にあるゲストハウス併設のカフェです。眼前に広がるヨットハーバーからセーリング体験ができ、運がよければ野生のイルカに出会えるかも!

西岸駅から
徒歩約3分

TEL. 090-4128-0748
石川県七尾市中島町外イ21-2
[web] <https://notopuca.com/youho/>

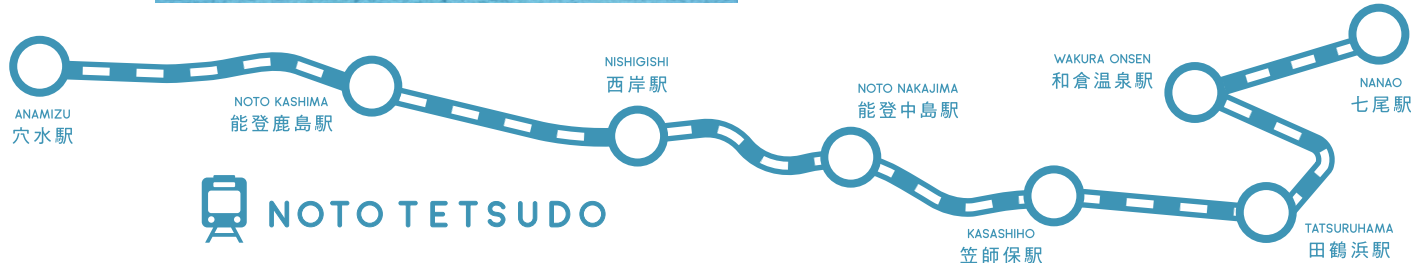


和倉温泉総湯

和倉温泉街の中央にある共同浴場。開湯以来1200年湧き出ている温泉は無色透明で、「海の温泉」ならではの豊富な塩分が特徴です。また、ここでは温泉を飲むこともできます。

和倉温泉駅から
徒歩約30分

TEL. 0767-62-2221
石川県七尾市和倉町ワ6-2
[web] <https://www.wakura.co.jp/>



蕎麦処 くき

自家製粉石臼引きの手打ち蕎麦を提供する蕎麦処。手作りにこだわった蕎麦はつやつやでもっちりとした食感。蕎麦本来の風味が感じられます。冬は蕎麦と共に味わえる地物の牡蠣料理も。

西岸駅から
徒歩約15分

TEL. 0767-66-6690
石川県七尾市中島町小牧ラ部69番甲地
[web] <https://www.kukisoba.com/>



鶏とまつば / pipipi pizza

明治創業の呉服屋を改装した、有名ガイドブックにも掲載される焼き鳥店。全国の地鶏・銘柄鶏より部位ごとに店主が厳選して提供しています。2024年夏より、昼の部として能登島「pipipi pizza」のピッツアが楽しめるようになりました(期間限定の予定)。

七尾駅から
徒歩約15分

TEL. 0767-88-9013
石川県七尾市松本町93-1
[web] <https://tori-to-matsuba.com/>

鉄道沿線の、ちいさな「のと」

きわめてローカルな鉄道会社ならではの、おすすめしたい沿線のお店やトピックをご紹介します。



高澤ろうそく

明治25年創業の和ろうそくのお店。主原料に植物ロウをつかい、芯は和紙に灯芯を手巻きしてつくられています。シンプルな白のろうそくから華やかな絵ろうそくまで種類豊富に揃っています。

七尾駅から
徒歩約10分

TEL. 0767-53-0406
石川県七尾市一本杉町37番地
(※店舗再建までの仮店舗)
[web] <https://www.takazawacandle.jp/>

能登の牡蠣

自然豊かな山林に囲まれ、餌となるプランクトンが豊富な七尾湾で養殖される能登の牡蠣は、小粒ですが肉厚で甘みが強いのが特徴です。10月から4月頃まで出荷が続きますが、産卵を控えた春牡蠣は特に濃厚で絶品です。



うまみが
ギュッと!



TRANSPORTATION ACCESS

のと鉄道への交通アクセス



「のと」の四季



冷えた朝に気嵐が立ち込める七尾湾

桜やチューリップが咲きほこり、気持ち華やか春。穏やかな青い海と、森や棚田の緑が美しい夏。ススキの穂が揺れ、コハクチョウが飛来する秋。雪帽子をかぶった山々に、寒さと静けさを纏う冬。どの季節に訪れてもそれぞれに魅力がある能登の景色をご覧ください。



多くの花見客で賑わう能登鹿島駅



青い七尾湾とツインブリッジのと



木々の合間を進むのと鉄道